

地球市民の市民とは左翼運動家のこと

国籍を持つ国民を否定、無国籍の市民＝左翼による霞ヶ関乗っ取り

正論5月号が発売されました。総力特集は「民主党よ、どこまで日本を壊したいのか」。外国人参政権について中大教授の長尾一紘氏、夫婦別姓について高市早苗議員と長尾敬議員、人権救済法案について「なめ猫」さんこと近藤将勝氏が寄稿しています。また民団について産経新聞の菅原慎太郎記者、「新しい公共」という概念に関して八木秀次氏が「地球市民」という言葉に鋭い切り込みを行っています。

多くの識者が「民主党は保守からリベラルまで内部はバラバラ」と指摘していますが、私は今の鳩山内閣は最左翼、つまり日教組が実現を目指してきた皇室打倒、日本解体路線でまとまっており、保守の声は政策には反映されていないと考えています。おまけに連立で組んだ相手が「社民党」の福島瑞穂ですから、反日政権の本領発揮、悪夢のような内閣です。

そこで気になったのが、死語になった筈と思っていた「地球市民」という言葉が静かに復活している事実です。八木氏の寄稿は誠にタイムリーで、「地球市民の市民とは、普通の生活をしている市民ではなく、市民運動家のこと。これは左翼リベラルの市民運動家による霞ヶ関の乗っ取りである」と看破しています。

以下、「国民を誑かす新しい公共という論理」とタイトルが付けられた八木秀次氏の11ページに及ぶ寄稿から、後半のAの部分抜粋して紹介します。「なめ猫」さんの寄稿も解放同盟の具体的な動きについてレポートしてくれた貴重な内容で、是非書店でお買い求めのうえ熟読されることをお勧めします。



正論5月号は定価740円で好評発売中です。画像クリックでHP目次ページに飛びます。

国民を誑(たぶら)かす「新しい公共」という論理

高崎経済大学教授 八木秀次

「地球市民の政治」を推進

(前略) 民主党が結成されたのは平成八(一九九六)年九月二十二日のことである。この日、開かれた民主党設立委員会結成集会で採択された「民主党のめざすもの」と題する文書がある。その中の「民主党の基本理念」と題された部分に次のような文章がある。

＜政治の対象としての「国民」は、何年かに一度の選挙で投票するだけだった。しかし、政治の主体としての「市民」は、……自ら情報を求め、知恵を働かせ、別の選択肢を提唱し、いくばくかの労力とお金を割いてその実現のために行動し、公共的な価値の創造に携わるのであって、投票はこの行動のごく一部でしかない。私たちがつくり出す新しい結集は、そのような行動する市民に知的・政策的イニシアティブを提供し、合意の形成と立法化を助け、行動の先頭に立つような、市民の日常生活用具の一つである。＞

ここでいう「政治の主体としての『市民』」とは「自ら情報を求め、知恵を働かせ、別の選択肢を提唱し、いくばくかの労力とお金を割いてその実現のために行動し、公共的な価値の創造に携わる」「行動する市民」のことである。しかし、ごく普通に存在する市民はここでいうような「市民」ではない。日々の生活に忙しくてそのような時間も余力もない。

では、ここでいう「市民」とは何か。はっきり言えば、市民運動家のことである。先に紹介した「新しい公共をつくる市民キャビネット」設立協議会の呼び掛け文や堀越氏の論文がNPOや協同組合を具体例に挙げていることを思い出してほしい。要するに「新しい公共」とは**民主党**を支持する左翼リベラル市民運動団体が従来の「官」に代わって政策決定に関与する回路をつくり出すことであり、市民運動家による**霞が関**乗っ取り工作とっていいものなのである。担当大臣まで置いた意味はその辺にあると言える。



問題はこれにとどまらない。「新しい公共」は「市民」によってつくられる。あくまで「市民」であって「国民」ではない。これまで紹介してきた**民主党**の基本文書やこの党に関係する様々な人々の文章を思い起こしてほしい。「国民」を敢えて「市民」と読み替えている。国籍を前提として議論が展開されている節はない。

無国籍の「市民」が前提となっている。結党時の「**民主党**のめざすもの」と題する文書の「**民主党**の基本政策」という部分の「しなやかな市民中心型社会への転換」と題する項には次のような政策が並んでいる。

＜新党の最重要課題の一つとして市民活動の活性化を促し、市民事業の自由を認め、これを保障するNPO(非営利活動法人)法の確立に取り組む。(中略)市民自らの行動による民際外交の展開や草の根**ODA**活動などのNGO活動を支援し、『国境を越える市民』とともに世界に貢献する地球市民政治を推進する。定住外国人の参政権の確立に努める。(中略)市民の『知る権利』に基礎をおいた情報公開法の早期実現に取り組むと同時に、**住民投票**制度の充実や**オンブズマン**機能、**国民投票**制度を検討する。＞

「地球市民政治を推進する」というのである。その文脈で「定住外国人の参政権の確立」にも触れている。同じ「**民主党**の基本政策」の「人権保障イニシアティブの発揮」の項には「定住外国人には、できるだけ早期に地方参政権を付与し、さらに一定に条件の下で国政参加権についても実現するよう検討する」とも書かれている。



定住ないし永住外国人への参政権付与は結党以来の党の基本政策であることが分かるが、国政参加権にも言及していることに注意してほしい。とにかく「国民」ではなく「市民」であり、何より「地球市民」「国境を越える市民」である。この党ではもはや国籍は関係なく、外国籍の人々であろうが「国政参加権」が認められるのである。

近代国民国家では国民はその国籍を有する国家に本人の好むと好まざるに拘わらず忠誠義務と国防の義務がある。近代以前の国家が一部の身分(例えば、日本では武士、**ヨーロッパ**諸国では騎士など)に国防の義務を負わせていたのとは対照的である。近代国家が諸身分を解消して「国民」としたからであるが、ここから「国民皆兵」が近代国民国家の基本原則となってくる。

実際、例えば韓国の憲法では「すべての国民は、法律の定めるところにより、国防の義務を負う」(第三十九条)と規定している。**中華人民共和国の憲法**も「祖国を防衛し、侵略に抵抗することは中華人民共和国のすべての公民の神聖な責務である」(第五十五条第一項)と規定している。

要するに韓国籍の人は日本に永住権を持つか持たないかに関係なく、本人の好むと好まざるとに拘わらずに韓国の国防の義務があるのであり、中国籍の人には中国の国防の義務があるのだ。そのような他国に国防の義務がある人たちに我が国の参政権を与えるというのは、近代の国民国家を否定することに等しい。

それにも拘わらず、定住ないし永住外国人に我が国の参政権を付与しようとする心根は何か。選挙対策の背景事情はここでは措くが、要するに「国民」概念を解体して「市民」に置き換えようということである。「市民」には国籍はない。何より「地球市民」である。「国民主権」を「市民主権」と捉え直すのであるから、主権の担い手は国籍を有する「国民」から、国籍の有無を問わない「地球市民」へと置き換わる。



画像クリックでケシクスさんへ 動画版「街宣！街宣！（修正版）」

同様の発想は子ども手当にも見られる。既に指摘されているように、子ども手当法案が定める支給対象は「十五歳以下の子どもを養育・監護している日本在住の父母」となっており、そこには外国籍の者も含まれる。外国人登録さえしていればよい。さらに子供が日本にいらなくても構わない。日本人であれ外国人であれ、「親が日本在住であること」だけが条件である。

そこから例えば母国に子供が百人いると申請すれば、百人分の子ども手当が支給されることになる。実子である必要はない。養子でもよい。世界には貨幣価値が日本の百分の一以下の国もある。そんな国の人が日本に外国人登録さえすれば、毎月莫大な金銭を手に入れる回路をつくったことになる。

他方、海外に在住する日本国籍の人々には子ども手当は支給されない。例えば、親が海外勤務で子供だけ教育の都合で日本に住んでいる場合は支給されない。このような矛盾した対応になるのも支給の対象者を「国民」とせず、国籍を問わない「日本在住者」、言い換えれば「市民」としたからである。

血の通った共同体を否定

要するに「新しい公共」とは国籍を問わない「市民」によってつくられるものである。先祖代々の長い歴史を共有した血の通った国民共同体に代わって作り出されるものが「新しい公共」である。「国民」の共同体である国家を否定し、「地球市民」によってつくられた新たな共同体が「新しい公共」にほかならない。

また、「新しい公共」の担い手である「市民」とは言い換えれば「自立した個人」のこともである。自民党政権下で初めて「新しい公共」という概念を打ち出した小渕内閣の『21世紀日本の構想』懇談会の最終報告は、そこでいう「新しい公」について「個人を基盤に力を合わせて共に生み出す新たな公」「自分の所属する場にとらわれず、自分の意思で、意識的に社会へ関わり合うことで新たに創出されてくる公」「多様な他者の存在を許し、思いやり、他者も支える公」「合意が形成された場合には、自分が従うべき公」と説明している。そして、その具体例としてボランティア活動を挙げる。



＜先の阪神・淡路大震災の際、多くのボランティア、特に数多くの若者が被災者の支援に駆けつけた。感動的な出来事であった。そこでは、多くの人々が自分の所属する場の外にまで関わっていったことで、日本人の新しい公の創出が起り、個人の意思としての公の意識が発生した＞

鳩山内閣の「新しい公共」円卓会議の第一回目の会合でも阪神・淡路大震災の際のボランティア活動について何度となく言及している。

「新しい公共」を強調する際には決まってボランティア活動が持ち上げられる。確かにボランティア活動は「自分の所属する場にとらわれず、自分の意思で、意識的に社会に関わり合う」活動であり、「個人を基盤に力を合わせ」、「合意を形成」するものである。

ボランティア活動に参加することは、それはそれで大いに結構なことだが、「新しい公共」が強調されるとき、このような自発的な意志で形成された共同体が持ち上げられる一方で、運命共同体とか血の通った共同体というべきか、そのような共同体が「古い公共」として否定的に扱われるのである。しかし、ボランティア活動などによって形成される、「個人」が所属する場にとらわれず「自分の意思で」関わる「公」からは、「自分の意思で」これまた容易に脱退できる。

自分の意思でいつでも入会でき、いつでも退会できる。問題は、「国民」が否定的に扱われ国籍を問わない「地球市民」に置き換えられたのと同じように、家族共同体のような血の通った共同体がボランティア活動と同様の、「自分の意思で」いつでも加入でき、いつでも脱退できるものに作り変えられようとしているということにある。



霞ヶ関・法務省のさくら(4月1日午前9時頃撮影)

現政権は選択的夫婦別姓制の導入や非嫡出子の相続差別見直しなどを含む民法改正を推し進めようとしている。非嫡出子とは結婚していない男女の間に生まれた子のことで、典型は夫が愛人に産ませた子のことである。現在の民法では非嫡出子の相続分は嫡出子(本妻の産んだ子)の半分ということになっている。これは法律上の結婚を保護するとともに本妻の地位を守る趣旨だが、今回の民法改正で見直しの対象となっている。

民法改正を推進する人たちにあるのは、「家族は個人のネットワーク」とする発想である。人は一人で生まれ、一人で死んでいく。その間に結ばれる個人と個人の関係の一つが家族であるということである。だから、結婚しようがしまいが「自立した個人」としての氏名は変わるべきものではない。

福島瑞穂男女共同参画大臣はかつて「『既婚』はもう恋の障害じゃない」(『婦人公論』一九九四年七月号)という文章を書いたことがあるが、結婚をしていようがしまいが自由に恋愛して子供を産み、その子供の相続分をみんな平等にしようというわけである。

「自立した個人」としての女性の「ライフスタイルの自己決定権」として位置づけられている。法律上の結婚とそれ以外の男女関係を平等にしようということで、結婚制度の否定に他ならない。要するに家族共同体をボランティア活動や趣味のサークルでの人間関係と同じような、いつでも加入・脱退できる希薄な人間関係に変質させたいという主張である。現に福島氏は娘が十八歳になったら「家族解散式」を行うと述べていたほどである。

同じような発想はやはり子ども手当にも見られる。子ども手当の発想は、以前、本誌でも書いたように、本来、働いてその対価を得られる子供が現在の憲法で労働が禁止されているために、国家がその補償として幾ばくかの金銭を支給すべきだということから来ている。



日章旗はいつ見ても良いですね。どこの日の丸が判りますか？

従って本来的には支給の対象は十五歳未満の子供であり、便宜上、親とされているに過ぎない。親は本来、子供に支給されるべき手当を代わりに受け取るのであり、これは本来的には子供に渡すべきお金である。だとすれば、親が子供に無断で子ども手当を使うことは許されない。ここから親子間に亀裂が生じることになる。

公立高校の授業料の無償化を含めて、結果としても親が苦勞して自分たちを育ててくれたという気持ちに子供たちはならない。親子の関係が希薄になる。果たしてこのようなことが現政権の関係者に分かっているのか知らないが、血の通った家族共同体はこの政権の下では明らかに崩れる方向に向かうだろう。

民主党が結党以来、目指している方向は何か。「市民」と称する一部の左翼活動家による霞が関の乗っ取りである。既に地方自治体の中には「自治基本条例」などの制定によって活動家が政策決定に関与できる回路が作られている。それを国政にも持ち込もうというのである。

併せて、「国家」や「国民」を否定して国籍を問わない「地球市民」による新しい国づくりを行い、家族共同体という血の通った共同体を否定して「自立的な個人」の自発的意思によっていつでも加入いつでも脱退できる「ネットワーク」に置き換えようというのである。そして、これらを有機的に結ぶ概念が鳩山首相が施政方針演説で繰り返し述べた「新しい公共」なのである。(後略、正論5月号、P94-P98)

全面制裁、国際連携で 拉致被害者救出を！

平成22年4月25日(日)

午後2時～5時 日比谷公会堂

- ・自虐史観を吹き飛ばす映画「凧として愛」の拡散にご協力下さい。
- ・DVDはこちらでお求め下さい。

これが正しい歴史、日本が好きな日本人は必見！

- ニコ動画版 凧として愛 ニコ1/3 2/3 3/3
- you tube版 凧として愛 1 2 3 4 5 6 7
- 注目・名作映画 氷雪の門 1/3 2/3 3/3
- 誇り～伝えよう日本のあゆみ～ 1/3 2/3 3/3
- 日本の童謡をいつまでも ふるさと—JAPAN
- NITABOH 仁太坊-津軽三味線始祖外聞
- 日本がアジアに残した功績
- 真実はどこに・・・

カテゴリ: [政治も](#) フォルダ: [指定なし](#)  

コメント(19)

タグ: [正論](#) [外国人参政権](#) [長尾一紘](#) [夫婦別姓](#) [高市早苗](#) [長尾敬](#) [人権救済法案](#) [近藤将勝](#) [地球市民](#) [八木秀次](#)

コメント(19)

コメントを書く場合はログインしてください。

Commented by [花うさぎさん](#)

2010/04/03 07:26

・ニュース [与謝野新党](#)

政界の流動化が加速か 背後に小沢氏の影？

[自民党](#)の与謝野馨元財務相がついに新党の立ち上げを決意した。すでに鳩山邦夫元総務相ら6人が次々と党を離れ、舛添要一前厚生労働相ら不満分子を抱えたままの自民党。今回の新党構想には、与党・[民主党](#)の小沢一郎幹事長の影もちらつく。与謝野氏の今回の行動は、野党・[自民党](#)の致命傷となるのか。約3カ月後に迫った参院選をにらみ、政界の流動化も予感させる。(船津寛)

[自民党](#)の谷垣禎一総裁は与謝野氏が求めた執行部一新を拒否した。これが“決起”の大義名分を与えたのは間違いない。

党内には「参院選を今の体制で戦えるのか」という不安が渦巻いているが、「[民主党](#)の支持率が急落する中、党内のゴタゴタは敵を利するだけ」(ベテラン)との意識も作用し、党内のマグマはかろうじて抑えられている。

与謝野氏がこの時期に行動を起こすのも、自らの離党・[新党](#)立ち上げが及ぼす参院選への影響を最小限に食い止め、[民主党](#)に党勢回復のスキを与えないため一との見方がある。

ただ、真の狙いは別にあるとの指摘もある。

3月28日に投開票された神奈川県逗子市議選の結果が与野党の国会議員に衝撃を与えた。トップ当選したのはみんなの党公認候補。その得票が1人で2371票だったのに対し、[自民党](#)公認の2候補の得票総数は2586票。[民主党](#)公認候補も2人で2604票。みんなの党の躍進ぶりを如実に示していたからだ。

昨夏の政権交代により民主、自民両党による本格的な二大政党時代が訪れたかにも似た。だが、新政権はことあるごとに迷走。下野した[自民党](#)も国民の信頼回復にはほど遠い状況だ。

そうした状況下で無党派層を中心に「第三極」を求める声が高まりつつある。みんなの党はその唯一の受け皿となりつつある。

与謝野新党が結成されれば、こうした「第三極」の一翼を担うことになるが、みんなの党の支持層は[民主党](#)支持層と重なるのに対し、与謝野新党は保守色の強い[自民党](#)支持層が基盤になる公算が大きい。

そうであるならば、与謝野新党で支持を失うのは[自民党](#)であり、[民主党](#)の支持率にはさほど影響しない。さらにみんなの党も打撃を受ける。

Commented by [花うさぎさん](#)

2010/04/03 07:26

そこで、指摘されるのが与謝野氏の「囲碁仲間」である小沢氏の存在だ。

参院選の改選2人区での2人擁立方針をとる小沢氏だが、最も警戒しているのが2人区でのみんなの党の動向だ。状況次第では、民主候補は共倒れの危険性が高まる。与謝野新党で得するのは実は[民主党](#)なのかもしれない。

参院選を前に交錯する与野党の思惑。これにもし首相候補としてナンバーワンの人気を誇る舛添氏が動きに加われれば、政界は一気に緊迫する。その舛添氏は2日、鹿児島市

内で参院選の自民党公認候補の会合に出席し、こう宣言した。

2010/04/03 09:00

「参院選で民主党が過半数をとれば、自民党、日本の保守が終わる。ありとあらゆる手段を使って過半数を渡さないようにする」

<http://sankei.jp.msn.com/politics/situation/100403/stt1004030130004-n2.htm>

う～ん、榊添氏は自分は保守と思っていたのか？。



Commented by **sumirehodo** さん

法務省や左翼のよりどころの一つ「国際人権規約」およびその恣意的な解釈が問題のような気がするのですが。

2010/04/03 09:06



Commented by **tom-h** さん

花うさぎさん、こんにちは。

瀬戸氏のブログを久しぶりに読んで驚いたのですが、仙谷君が自分たちの予算を酷評したみたいですね。今「ミスターリーフ」「抑えの切り札」こと若林正俊の代理投票問題による議員辞職が話題ですが、まあ青木幹男のボタンを勝手に押す馬鹿の辞職は当然だと思いますが、仙谷も議員辞職とは言わずとも閣僚更迭があつてしかるべきじゃないですか。

しかも個人的におかしかったのがここ

「小淵首相の時の金融危機で銀行などを救済したところから、悪い循環が始まった」

おおい、金融国会で小淵政権が選択したのは民主党を初めとする野党案でしょ。自分たちが過去したことを否定するのか？

そもそもあのとき救済しなけりやどういふ事になったことか。日本の市場に対する信頼は山一・拓銀の破綻だけで十分失われていたのに、ここでも無為無策を貫いたら、リーマン以降の自民党の対応も批判されているみたいですが、当時は日本はもちろんのことアジア通貨危機も十分回復していない時期で、アメリカもLTCMの破綻という不安要素があつて、長銀・日債銀の対応をしくじれば十分世界恐慌になつてもおかしくなかつたでしょう。

そんなことも分からないヤツが国家戦略局担当大臣だなんて。



Commented by **tom-h** さん

しかも民主党を初めとする野党案を小淵政権が選択したから、未だに枝野幸男や与党内政策新人類の石原伸晃・塩崎恭久らが「金融危機を救った」などと言われるがどうも合点がいかない。

2010/04/03 09:15

自民党政府案でもっと早く決着していればあれほどの混乱も招くこともなくあれほど多額の公的資金を投入せずにもすんだはず。小淵政権を批判されているが、自分たちがあれほどの財政支出を余儀なくしたんでしょ。

当時の政権の対応を批判するとしたら救済したこと自体でなく、長銀をリップルウッドに売却の際、譲渡時点の価値から一定以上下落したら国が損失を担保する瑕疵担保特約なるものを承したせいで、中小企業だけでなくそごうを初めとする大企業をも破綻に追いやり経済的に混乱させたことでしょう



Commented by **しばりよう** さん

花うさぎ様 おはようございます。

2010/04/03 10:52

若林問題 お粗末でした。しかし、しっかり自浄能力しめせてよかったのではないのでしょうか。

起訴されても 居座るどこぞの 党より よっぼど、全うです。

西田昌司氏 谷垣氏より よっぼど わかりやすく 代わってほしいぐらいです。

<http://mondoselect.seesaa.net/article/145482784.html>



Commented by **しばりようさん**

To 花うさぎさん

> ニュース 与謝野新党

>

> 政界の流動化が加速か 背後に小沢氏の影？

> そうであるならば、与謝野新党で支持を失うのは**自民党**であり、**民主党**の支持率にはさほど影響しない。さらにみんなの党も打撃を受ける。

いよいよ 動きだしましたね。

上記の論評 少しおかしいとおもいますが、

みんなの党は、民主とダブルところが大きいので、民主支持層が、

みんなの党に流れ、民主に打撃を与えると思うのですが。

平沼**新党**は、自民から、離れた旧自民票を取り戻すのではないのでしょうか。

人気のある 舛添氏が、離党するか、自民に残るかで、かなり影響はあるでしょうね。

どうなりますか、先がよめません。

2人区は、民主 全滅じゃないでしょうか。

自民と みんなの党で、1議席づつが理想ですが。



Commented by **☆ たちあがれ日本 ☆さん**

> 平沼**新党**は、自民から離れた旧自民票を取り戻すのではないのでしょうか

そう思います。

> 2人区は、民主 全滅じゃないでしょうか

そう願います。^^



Commented by **花うさぎさん**

To sumirehodoさん こんにちは。

> **法務省**や左翼のよりどころの一つ「国際人権規約」およびその恣意的な解釈が問題のような気もするのですが。

御意！。

人権に関して云えば、日本は世界一「胸を張れる国」であることは間違いありません。



Commented by **花うさぎさん**

To tom-hさん こんにちは。

> 仙谷君が自分たちの予算を酷評したみたいですね。

自分もその予算を決めた当事者、閣僚の一人であるという自覚はないみたいですね(^
^;)。

> 自分たちが過去したことを否定するのか？

「あれっ！ そうだっけ？」とか(^
^;)。

> そんなことも分からないヤツが国家戦略局担当大臣だなんて。

正直言って「荷が重いだらうな」と思います。

2010/04/03 11:18

2010/04/03 19:50

2010/04/04 00:18

2010/04/04 00:23

2010/04/04 00:25

2010/04/04 00:29



Commented by **花うさぎ** さん

To tom-hさん

>譲渡時点の価値から一定以上下落したら国が損失を担保する瑕疵担保特約なるものを了承

あれは今でも鮮明に覚えています、いくらなんでもメチャクチャな大安売りだな、と受け止めていました。



Commented by **花うさぎ** さん

To しばりょうさん こんにちは。

>起訴されても 居座るところの 党より よっぽど、全うです。

はい。しかももともとやめる予定だった人ですから。

>西田昌司氏 谷垣氏より よっぽど わかりやすく 代わってほしいぐらいです。

谷垣氏は平時の与党なら温厚なリベラルで通用したでしょうが、乱世・戦国時代の今では求められる党首像とはかけ離れていますね。この西田氏か稲田氏をトップにして全員でサポートする気構えでないと**自民党**は再生できないでしょう。



Commented by **花うさぎ** さん

To しばりょうさん

2010/04/04 00:33

>みんなの党に流れ、民主に打撃を与えると思うのですが。

みんなの党が支持率が上がっているのは、民主も自民もダメ、という層がここに来ているからでしょう。

>平沼**新党**は、自民から、離れた旧自民票を取り戻すのではないのでしょうか。

これは間違いないですね。

>人気のある 舛添氏が、離党するか、自民に残るかで、かなり影響はあるでしょうね。

この人は思想的には民主のリベラルと大差ないでしょう。**民主党**が舛添を取り込むような時代を防げれば、どうなっても構いません。私はこの男は評価していませんので。

>2人区は、民主 全滅じゃないでしょうか。

そうなるように祈ってます(^.^)。



Commented by **真実ゆう子** さん

地球市民ってペクチョン出の逃げてきた人なんでしょ。

あの人たちって何もかも貧相よね。

なんて意地悪言いまくって、サヨクをちょちょ**舞**わすって楽しそうですねw

心かき乱して火病併発させて陥れ返してやればいいんですよ。

どうせ馬鹿チョンなんですから。とあえて書いておきます。

2010/04/04 13:18



Commented by **花うさぎ** さん

To 真実ゆう子さん こんにちは。

2010/04/04 17:54

>地球市民ってペクチョン出の逃げてきた人なんでしょ。

がははははははは(^.^)。やたら過去の履歴を消したがつてますね。

>心かき乱して火病併発させて陥れ返してやればいいんですよ。

この「火病」の決定的動画ってご存知ですか？

Commented by **mouffe** さん

2010/04/04 22:29



花うさぎ様

ご無沙汰しております。
失望しきっていた政党政治の方も流動化が進む気配あり、
関心をもちはじめています。

ところで「新しい公共」を批判している八木氏の議論、
ちょっと私は納得いきません。

「自ら情報を求め、知恵を働かせ、別の選択肢を提唱し、
いくばくかの労力とお金を割いてその実現のために行動し、
公共的な価値の創造に携わる」「行動する市民」って、
われわれのような人々も入りませんか？

「日々の生活に忙しくてそのような時間も余力もない」と祖国の
危機を前に目先の利益で汲々としているからこそ、保守再生への
道は厳しいか、と。敵に塩を送る、ではありませんが
これは我々も率先して実行すべき行動様式だと思うのですが。
(そうでないと、彼らの「乗っ取り」黙認になるか、官僚支配
に甘んじる事になるのでは？と)



Commented by **mouffe** さん

2010/04/04 22:44

(続きです)

地球市民についてはコスモポリタニズムから(ギリシアから)
延々と歴史はありますが、いろいろ私は考えさせられます。

ご指摘のように近代国民国家では国民は、国家への忠誠義務と国防の
義務がありました。しかし国民国家を一番初めに造りははじめた
現在のヨーロッパでは現実に、これは解体しつつあります。
徴兵制を敷いている国は減少の一途。これを見習うべきか、は意見が
わかれるでしょうけれど、「世界最強」のアメリカでも戦場の兵士の
3分の1は「多国籍・無国籍」の戦闘のプロに外注する有様。
中共や韓国の憲法に書いているといっても、足並みをそろえる
べき国でしょうかね…

私としては、それならまだ近代国家を超えるアジア主義に基づく
大日本帝国(これは国民国家ではありません、帝国です)の方が
説得力がある、と思うのですが。

私も感情論としては「自分の国は、自分で守りたい」と思いますし
地球市民にいたっては空疎だと思います
しかし 敵に打ち勝つ安全保障を考える上では、いつまでも
かつての「欧州産」の国民国家を維持しているだけでは
「負け戦」になりそうな気がするのですが、どうでしょうかね…
どうも私は現実的にモノを考えてしまう部分があつて
もっと伝統や歴史に思いをはせ夢と言うか理想を(良い意味で)
語るべきなのかもしれませんが(苦笑)

平沼・与謝野グループについても、影で東京都民の血税を私物化
した似非右翼・石原が策動していたり(人によって評価は違うでしょう
けれど、保守や右翼をもてあそぶこの男は許しがたい)
自民の青木、さらに小沢とも与謝野は関係が深いですし。
平沼氏も何を考えたか公明と連日、会談を重ねているって…
なんとも判断しかねますが、これからの行動を見ていきたいですね。



Commented by **花うさぎ** さん

2010/04/05 09:03

To mouffeさん おはようございます。

>「行動する市民」って、われわれのような人々も入りませんか？

2010/04/05 09:09

この特集のこの文脈では我々には入らないでしょう。[鳩山由紀夫](#)の想定している市民＝左翼ですから(^_^)。

> これは我々も率先して実行すべき行動様式だと思うのですが。

その通りだし、昨年春頃から現実にもそのような行動をとってきたと思います。ただ。我々は市民と呼ばれるより「日本国民」と呼ばれたいですね。



Commented by [花うさぎ](#) さん

To mouffeさん

> 現在の[ヨーロッパ](#)では現実にも、これは解体しつつあります。

一応[ヨーロッパ](#)は白人とキリスト教という人種・宗教で共通の土俵がある上に[NATO](#)という安全保障を持っていますから、単純な比較は出来ないでしょう。

> 平沼氏も何を考えたか公明と連日、会談を重ねているって…

> なんとも判断しかねますが、これからの行動を見ていきたいですね。

そうですね。一刻も早く[民主党政権](#)を終わらせて欲しいです。